



## キラキラ

校長 中村純治

2月3日(月)には、1年生生活科「昔の遊び」の学習で、17人の地域の方が、昔遊びの先生として来校されました。



子供たちは、体育館で「丸々2時間」「17人の先生」「8つの遊びをローテーションして全員が体験」という設定の中で、昔遊びのおもしろさや楽しさ、あるいはその難しさを味わいました。また、地域の方と交流するという貴重な体験をしました。会場では終始、子供たちのキラキラとした目の輝きと、低学年児童特有の体をピョンピョン弾ませて嬉しさを表現する姿が見られました。

17人の方も一度に来てくださるのは、初めて見ました。毎年、この場を設定できるのは、この地域ならではの特色であり、非常にありがたく思いました。

さて、学習が終わり、多目的室で地域の方に、私からお礼を述べている時のことです。1年生担任が、代表の子供数人とともに多目的室に来ました。「子供たちに改めてお礼を述べさせたい」と言うのです。もちろん、体育館では子供たち全員で「ありがとう」の言葉は伝えていました。しかし、お礼の挨拶は良いことです。地域の皆さんの前に立って、子供たちは話し始めました。

『今日は、来てくれてありがとう！』  
『けん玉、すご〜く楽しかった』  
『お手玉、とっても楽しかった』  
『竹馬、難しいけど楽しかったです』  
『全部楽しかった』  
『これから、練習します！』



体育館とは違う緊張がありましたが、発表する子供の目はキラキラと輝いていました。地域の皆さんからも、『ありがとう』『私たちも楽しかったよ』と返礼がありました。地域の皆さんの目もキラキラと輝いて見えました。多目的室が一瞬、キラキラでいっぱいになりました。

後で、担任に尋ねてみると、「片付けの時から多くの子供が、体験を懸命に話しに来た」こと、「この姿に対して体育館でのお礼が、あまりにもあっさりしていた」ことから、お礼の場を改めて設けるべきだと判断したそうです。

とても小さな出来事です。しかし、目の前の子供たちの動きを見て、教師が必要性感じて、お礼の場を設けたこと、そのねらいのとおり、子供たちが体験から得た想いを率直に伝えたこと、さらにその言葉が関わる人の心に響いたことなど、その中身は、とても大きな出来事だったと思います。

私たち教師は、子供たちがキラキラと目を輝かせ、自らの想いを表現する姿を求めて指導にあたっています。が、時間の制約や事前の計画、その時の学級の状況など様々な要因から、常には、その姿につなげることはできません。

しかし、少しでも多くつなげることができるよう、教師が協働する中で、子供たちが輝きを放つ姿を、そして、教師が子供たちをそこに導くことができたという喜びで輝く姿を求めていきたいと思えます。今後も、指導を工夫していきます。子供たちから、学校での自分の輝きについて報告があった時は、その話に耳を傾けてください。そして、大いに認めてあげてください。

# 東京オリンピック 1964の資料の閲覧



1月31日（金）と2月3日（月）の2日にわたって、1964年に行われた前回の東京オリンピック資料の閲覧を行いました。

この資料は、市内にお住まいの方が、市内の小中学校の子供たちの学習の役に立てればと貸与して下さった貴重な物です。

子供たちは、多目的室内の机に展示された絵はがきやプログラム、メダル、切手集などを熱心に見学していました。



# 伝統文化 フェスティバル



1月19日（日）、市文化会館で「第10回ひたちなか市子ども伝統文化フェスティバル」が開催されました。



本校の伝統文化クラブ児童は平磯中、磯崎小と合同で「はくあき磯の会郷土芸能クラブ」として、①よさこいソーラン節、②網のし唄、③三浜盆唄を発表しました。子供たちは大勢の観衆の前でも臆することなく堂々と発表しました。

また、子供たちの活動の様子は、事前に「市報ひたちなか」にも掲載されました。



# 第3学年 校外学習 (幸田商店)



2月3日（月）、第3学年児童が潮騒（総合的な学習の時間）の学習の一環として、烏ヶ台にある幸田商店へ校外学習に行きました。平磯小学校では地域の特産物等を教材にした郷土学習を積極的に行っていますが、今回はこの地域が全国の90%を生産している干し芋づくりを学習しています。子供たちは、干し芋作りの様子を見学し、干し芋作りの工程を学ぶことで、地域の特色ある産業を知り、平磯の良さを知ることができました。

